

教師の個性が生きる

学校づくり

子どもが変わる校内研究へのとりくみ



横浜市立本町小学校 著

監修 筑波大学教授 高野 尚好

2 秀吉流!? コンピュータ環境統一への道



出口 和 生

(1) 私の役目は豊臣秀吉!?

私は、本町小学校のコンピュータ教育の中で何をやってきたのだろうと、ふと振り返ることがある。そうしたとき、戦国の世から江戸へと時代を走り抜けた3人の武将の名前が思い浮かんでくる。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康。

自分では、性格的に似ているのは徳川家康なのではないかと常々思っているし、考え方は革新を求める織田信長に似ているのかも知れないと勝手に思っているが、これまでに通ってきた道筋は「横浜市立本町小学校の豊臣秀吉」であったと感じている。

(2) 信長N氏からの引き継ぎ

私の前任者は、現在某大学講師として活躍しているN氏。彼は昭和63年、導入されていたもののほとんど機能していなかった本町小学校のコンピュータを再生させるべく整備を進め、平成元年度には、第1期横浜市情報教育研究校として、オープンスペースへのコンピュータ分散配置というそれまでに例のない事業を成し遂げた。まさに、時代の風雲児「織田信長」であった。そのN氏とともに過ごした1年間は、破竹の進撃を続けて全国制覇へひた走った信長晩年のようであった。このときコンピュータ活用に関する数々のノウハウを学びとっていった。

平成3年、N氏の去った後に残ったものは、40台の分散配置されたコンピュータとそれまでの実績という大きな遺産であった。これらをさらに発展させ、平成5年度に迎える全国小学校理科研究大会で成果を示すことが、遺産を引き継いだ私に課せられた使命となった。



(3) ワープロ狩りとコンピュータ検地

コンピュータを子どもたちが効果的に使うには、まず教員がコンピュータを使うことのメリットを知らなくてはならない。こうした考えから、「ワープロ狩り」と「コンピュータ検地」を実施した。まず、校内公文書はすべてコンピュータ・ワープロソフトによる統一出力を実施した。ワープロ専用機での入力も認めたが、出力は必ず学校のレーザプリンタで行うことを原則として、ワープロ入力の場合はコンバートしてコンピュータに入れ直すという作業まで行い、半強制的に教員のコンピュータ使用を義務付けてしまった。このいわば「ワープロ狩り」には賛否あったが、結果として全教員がコンピュータを日常的に使用するという状況を生み出した。

次に、授業におけるコンピュータの活用という視点で、学年ごとのコンピュータ活用報告を毎

学期実施することにした。本町小学校では、コンピュータの使用を教育課程に位置付けて、子どもたちに無理矢理使わせようという発想はしていない。コンピュータは便利で効果があると思われる場面で必要に応じて使えば良いと考えているのである。しかし、ただ放っておいてはコンピュータ活用に偏りが生じてしまうので、「ここではこんなソフトがありますよ。」「去年はこんな実践をしていますよ。」といった情報をガイドラインとして提示し、それに基づいた報告を行う「コンピュータ検地」を実施した。

コンピュータ活用のガイドライン

	育成したい情報活用能力	基本応用ソフトウェア (全員が触れ、 ある程度操作で きるようにする ソフト)	平成6年度までの活用の概要			
			年	教科	単元名(ソフト名)	休み時間
低 学 年	7.情報の判断、選択、整理 処理能力及び新たな情 報の創造、伝達能力	1.情報科学基礎及び情報 手段の特徴の理解、基 本的な操作能力等習得	お絵描きソフト ゲーム型 ドリルソフト	1 年	算数 とけい・計算など(さんすうはかせ)大きな数(BASIC)たしざんゲーム(フリーソフト) もうすぐ2年生(キューブJr)かそくの紹介をしよう(キューブJr) パソコンお絵描きコンクール(キューブJr)	お買いもの・モ ブにあるよ キューブJr
				2 年	生活 学年フェスティバル(おまつりテープス)動くおもちゃの設計図(パンダ) ポスター・チケット作り(キューブJr)おもちゃ広場をつくらう(おまつりテープス) 算数 たし算ひき算かけ算(さんすうはかせ)たしざん・ひきざんゲーム(ファインファクト) 大きな数(1000より大きな数) 創意 コンピュータで遊ぼう(お買いもの・モブ・ファインファクト・キューブJr...など)	キューブJr さんすうはかせ ファインファクト お買いもの モブ
				3 年	理科 人のからだ(MACクイックタイム)季節探しの観察メモ(キューブJr) 国語 港のある私たちのまち(おまつりテープス)上手な買い物よいお店(おまつりテープス) 社会 時を読もう(ARUGA) 音楽 キーボードで曲作り(フリーソフト)	キューブJr モブにあるよ お買いもの モブ
高 学 年	○お絵描きソフトや図形 作成ソフト・ワープロ ソフトなどを利用して 表したりすることがで きる。 ○調べたことや自分のメ モをデータベースに登 録したり、それを利用 して学習を進めること ができる。 ○様々な表現活動におい て、ワープロソフト、 表計算ソフト等を利用 することができる。	○キーボードを操作して 日本語入力を行うこと ができる。 ○自分に必要なソフトウ ェアを選択して利用す ることができる。 ○プリンタやイメージス キャナなどの周辺機器 を必要に応じて利用す ることができる。 ○パソコン通信やFAX 通信を利用した他地域 の人々との交流をし たり、インターネット等 で情報収集したりする ことができる。(新た な情報手段への対応)	ワープロソフト お絵描きソフト データベース ソフト パソコン通信 表計算ソフト (統合ソフト)	4 年	国語 方言と共通語(ARUGA+通信)ローマ字・詩集作り(ARUGA)あったらいいな(マルチメディア) 理科 ソーラーカー(ADコンバータ+電線)生き物アルバム(生き物データベース・学習にあるよ) 社会 神奈川県横浜市(ARUGA+キップ98)特色ある地域(通信)M.M.2.1と吉田新田(マルチメディア) 算数 計算練習(通信)面図(通信)分数(4分50秒) 体育 コンピュータとなかよく(通信ソフト) 音楽 鉄棒運動(通信)なわとび(通信)なわとび(通信) 創作(ミュージック・ファインファクト・ミュージック)	キューブJr ARUGA モブにあるよ キップ98 クリエティブ どろこ
				5 年	算数 分数計算練習(通信)円の面積(円の面積)三角形の面積(通信)円と正多角形(正多角形) 理科 振り子の周期(キューブJr)人の誕生(MACレザードディスク)天気予報官(エクスプレス・伝説FAX) 国語 版図の下絵(キップ98) 体育 鉄棒運動(通信)なわとび(通信)なわとび(通信)とび箱運動(フリーソフト) 社会 農業・水産業・工業(キューブJr・ARUGA・パソコン通信)自動車工業(ARUGA+キップ98) 音楽 文楽・作文(ARUGA+メール)インタビュー(マルチメディア)	ARUGA キューブJr 通信 キップ98 伝説FAX エクスプレス どろこ
				6 年	国語 卒業文集・新聞(ARUGA) 理科 宇宙船地球号(パソコン通信・通信ソフト)星(ハイパーネット・天文シミュレーション) 社会 歴史学習(通信)いざ鎌倉・鎌倉参上・鎌倉参上(通信)年表作成(ARUGA) 道徳 福祉(ARUGA)	ARUGA KID98 通信 伝説FAX
他			他	取 出 特 活	算数計算習熟(さんすうはかせ)ひらがなかな(キップ98) 情報委員会・パソコンクラブ(おまつりテープス・ゲーム・パソコン通信)	

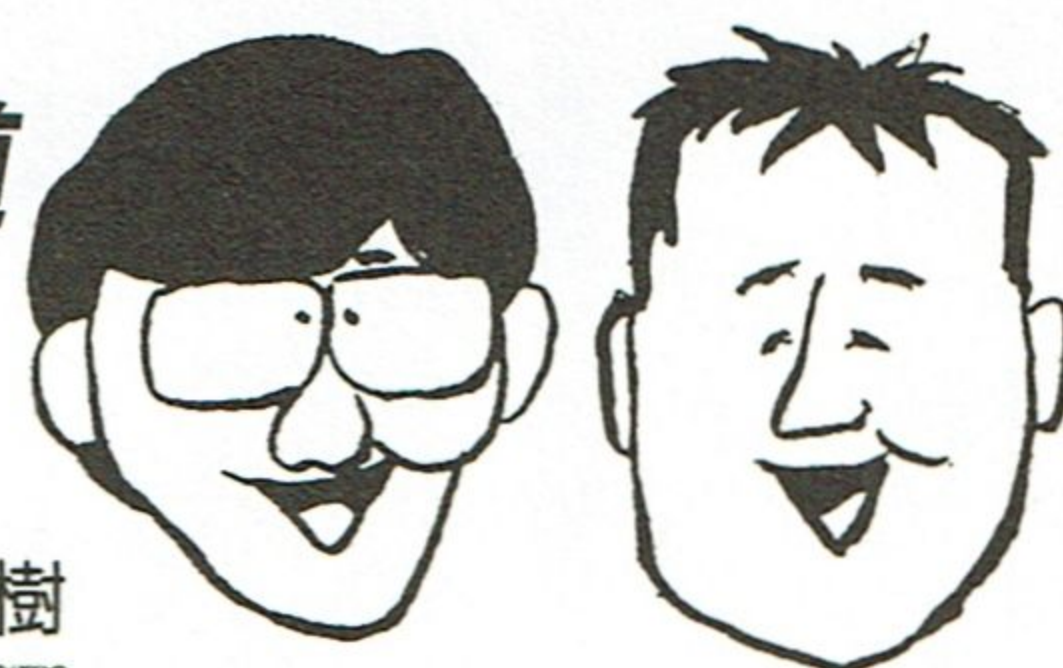
(4) 理科全国大会(教育課程)との戦い

平成5年度には、全国小学校理科研究大会授業校として授業公開を行うことになったが、ここでは、「コンピュータを使う」というハード優先の考え方ではなく、「実体験を重視する理科の授業で、こんなことができたなら…こんなものがあったら…」という授業優先ソフト優先の考え方を貫いた。その結果として、教育課程には位置付いていなくても18学級中10学級でコンピュータを用いた授業を公開することができた。中には最新鋭のハードが必要なものもあったが、多くは旧式のコンピュータを駆使したものであった。

(5) 見果てぬ夢への挑戦・そして家康へ

理科の全国大会も終わり世も安定してくると、次第に新たな野望が頭にうかんでくる。時はすでに平成7年、世はマルチメディアだ、インターネットだと騒いでいる。秀吉の戦略の中にもそれらに対応する策はすでにうたれ、100校プロジェクト参加という形で実現しようとしている。しかし、時代の最先端を追うことだけが教育現場に必要なとは思わない。地道に「今日の授業があると便利なものを自然に使うこと」を目指していくことも忘れてはならない。時代は動き始めている。信長や秀吉のようにコンピュータ担当者が先頭に立って切り回す時代から、家康の時代へと……。

3 直弼流!? インターネット開港への道



出口和生 & 安富直樹

(1) 黒船<100校プロジェクト>来航!?

「100校プロジェクト。通産省と文部省が協力して、インターネットの教育利用の研究を行う。そのために全国の小中高等学校の中から100校を公募する。」平成6年8月の新聞にこのような記事が載った。これまで、パソコン通信の教育活用の道を探っていた本町小にとっては、まさに渡りに船の願ってもない話で、すぐに応募することが決まった。そして結果を待つこと半年……予想をはるかに越える応募校があったために、100校選考は難航を極め、結局発表は翌年の1月まで待たされることになった。この待たされた半年間は、黒船の来航を待つ井伊直弼と同じ心境であっただろう。

(2) 井伊直弼の生涯

彦根藩主の14男として生まれた直弼は、少年期までは裕福な生活を送っているが、父親の死んだ後の青年期には貧困生活を送ることとなった。直弼はその間、苦しい生活の中で文武芸道（禅学、居合、兵学、茶道、歌道、儒学、国学、古学）に励み、力を蓄えた。また直弼は、いったん手を染めた研究は、成し遂げるまで追究するという性格だったので、どれも中途半端には終わらなかった。養父の死によって、井伊家を継ぐことになった直弼は、遺産を私利のために使わず、領内の士民に分配するなどしたので、領民の信頼を得ていた。そして、黒船の来航とともに大老として日本の国の運命を背負うことになっていった。その後の直弼の業績と最期はよく知られるところであり、「日米修好通商条約の締結」「安政の大獄」「桜田門外の変」と後の世に大きな影響を与えるところとなった。本町小学校の間近にある「掃部山公園」は、その直弼の業績を称え、開国の地「横浜港」を見下ろす場所に銅像を建てたことが、その名前の由来となっている。今も直弼の銅像は公園中央にそびえている。



(3) インターネット条約締結

平成7年1月、通産省から100校プロジェクトのAグループに選考された旨の連絡が届き、新聞等にも公表された。本町小学校が世界への窓口となるインターネットという条約を締結した瞬間であった。直弼も日米修好通商条約を締結した心境は、このようであっただろう。そして、日本

が開国へと向かったように、本町小学校は教育におけるインターネット活用という新しい世界へ向かって、スタートしていった。

(4) 「本町小の大獄」「本町小外の変」はない!

「100校プロジェクトAグループに決定」という大事件の後に本町小学校に起こったことは、楽なことばかりではなかった。数ヶ月後に迫った全国小学校社会科研究協議会の授業の中にもインターネットを活用する方法を探らなくてはならなくなってしまった。また、開国したがために、他のコンピュータ研究校・新聞社・コンピュータ関係雑誌会社・TV局……と外国からの取材の嵐の中に身を置くことになっていった。こうしたことは、100校プロジェクト担当となった私たちが対応すればよいことであるが、次第に他の教員への要望も出さざるを得なくなった。

「学校のホームページを作るので、自己紹介・クラス紹介をワープロで作成してください。できれば、写真か似顔絵も提出してください。」平成7年現在、このレベルまでであるが……そのうち、「各自でインターネット上に自分のページを作成してください。」という庶民には苦しい要求を出すかもしれない。安政の大獄と同じように……。

そして、直弼の最期「桜田門外の変」のように、インターネット担当の私たちが、「本町小外の変」として、暗殺されることがないようにしなくてはならない。

1995. 1. 7

教育家庭新聞

100校の校種別内訳				
学校種別	校数	公立	私立	国立
小学校	17(6)	14(4)	3(2)	
中学校	29(8)	20(3)	4(1)	5(2)
高校	38(13)	34(13)	5(0)	
中学・小	1(0)	1(0)		
中学・高	8(5)		7(5)	1(0)
特別教育	8(0)	4(0)		2(0)

全国102校の分布図



() 内はAグループとして選定された学校

インターネットに接続される102校 (さきアメリカ校)

学校名	種別	グループ	学校名	種別	グループ
北海道 北海旭川高等学校	公立	A	長野県 長野市立篠ノ井西中学校	公立	A
札幌市立札幌南小学校	公立	B	茨城県 茨城県立水戸商業高等学校	公立	B
岩手県 志志内市立志志内中学校	公立	B	岐阜県 川島町立川島中学校	公立	A
青森県 青森県立青森工業高等学校	公立	A	輪之内町立大蔵小学校	公立	B
岩手県 陸奥市立桜町中学校	公立	B	岐阜県 岐阜市立海津北高等学校	公立	B
宮城県 盛岡市立西宮町中学校・高等学校	私立	B	静岡県 清水国英中学・高等学校	私立	A
宮城県 東北学院中学高等学校	私立	A	信濃県 信濃県立信濃高等学校	私立	B
仙台市立第一中学校	公立	B	静岡県 静岡市立駿河東高等学校	公立	B
宮城県 宮城教育大学教育学部附属小学校	国立	B	名古屋県 名古屋市立西陵商業高等学校	公立	A
秋田県 六ヶ所町立六ヶ所中学校	公立	B	南山国際高等学校	私立	B
山形県 山形県立庄内農業高等学校	公立	A	三重県 二重県立飯野高等学校	公立	B
福島県 福島県立福島高等学校	公立	B	滋賀県 大津市立平野小学校	公立	A
茨城県 つくば市立桜南小学校	公立	A	京都府 同志社国際中・高等学校	私立	A
茨城県 茨城県立岩井高等学校	公立	B	京都府 京都府立商業高等学校	公立	B
栃木県 宇都宮大学教育学部附属中学校	国立	A	愛知県 愛知県立豊田高等学校	公立	A
高松市立阿久津中学校	公立	B	大阪府 大阪府立豊中高等学校	公立	A
栃木県 栃木県立小山園芸高等学校	公立	B	大阪府 大阪府立豊中高等学校	公立	B
群馬県 前橋市立第四中学校	公立	B	大阪府 豊中市立豊野小学校	公立	B
埼玉県 浦和市立高等学校	公立	A	兵庫県 兵庫県立神戸商業高等学校	公立	A
埼玉県 埼玉県立越谷総合技術高等学校	公立	B	兵庫県 兵庫県立兵庫工業高等学校	公立	B
千葉県 東金女子高等学校	私立	B	神戸市立藤原高等学校	公立	B
旭市立野田小学校	公立	B	兵庫県 兵庫県立神戸高等学校	公立	B
木更津市立清川中学校	公立	B	奈良県 奈良県立奈良高等学校	公立	A
東京都 慶応義塾中等部	私立	A	和歌山県 和歌山県立和歌山高等学校	公立	A
東京都立山崎高等学校	公立	A	鳥取県 鳥取県立米子南高等学校	公立	A
筑波大学附属高等学校	国立	B	島根県 大社町立大社中学校	公立	B
学習院高等学校	私立	B	岡山県 岡山大学教育学部附属中学校	国立	B
東京都立大田高等学校	公立	B	岡山県 岡山県立岡山高等学校	公立	B
八丈町立大田高等学校	公立	B	広島県 広島市立豊田小学校	公立	A
目黒学園女子中・高等学校	私立	B	山口県 山口大学教育学部附属光南中学校	国立	B
神奈川県 横浜国立大学附属横浜小学校	公立	A	下関市立長府中学校	公立	A
慶應義塾普通部	私立	B	徳島県 徳島県立徳島高等学校	公立	B
清泉女子学院中学・高等学校	私立	B	香川県 坂出市立坂出中学校	公立	B
桐蔭学園中学校	私立	B	土庄町立土庄中学校	公立	B
川崎市立商業高等学校	公立	B	愛媛県 松山市立東中学校	公立	A
大和市立林間小学校	公立	B	愛媛県 愛媛県立新居浜工業高等学校	公立	B
相模原市立相模原小学校	公立	B	高知県 高知県立高知高等学校	公立	B
新潟県 中野市立中野小学校	公立	B	福岡県 福岡教育大学教育学部附属福岡中学校	国立	B
富山県 富山県立富山高等学校	公立	A	北九州市立小倉西小学校	公立	B
富山県 富山県立富山高等学校	公立	A	佐賀県 武雄市立武雄北中学校	公立	B
			長崎県 長崎県立長崎中学校	公立	A
			熊本県 熊本県立小川工業高等学校	公立	A
			熊本県 熊本県立熊本高等学校	公立	B
			大分県 大分県立大分高等学校	公立	A
			大分県 大分県立日田工業高等学校	公立	B

インターネットと接続

平成の夢の102校が決定

通達省が文部省と協力し、全国の学校をインターネットと接続する百校プロジェクトの決定が決定し、昨年十二月中旬、各都道府県教育委員会に通知された。

約千五百校(前年約千五百校)の学校の中から、平成の夢の102校が決定された。この102校は、全国の学校をインターネットと接続する百校プロジェクトの決定が決定し、昨年十二月中旬、各都道府県教育委員会に通知された。

この102校は、全国の学校をインターネットと接続する百校プロジェクトの決定が決定し、昨年十二月中旬、各都道府県教育委員会に通知された。

5 コンピュータ活用・ワンポイント紹介

出口和生 & 高木伸之



1 国語編「あったらいいなこんなもの」(出口)

(1) 子どもたちが嫌がる「書き直し&キーボード」

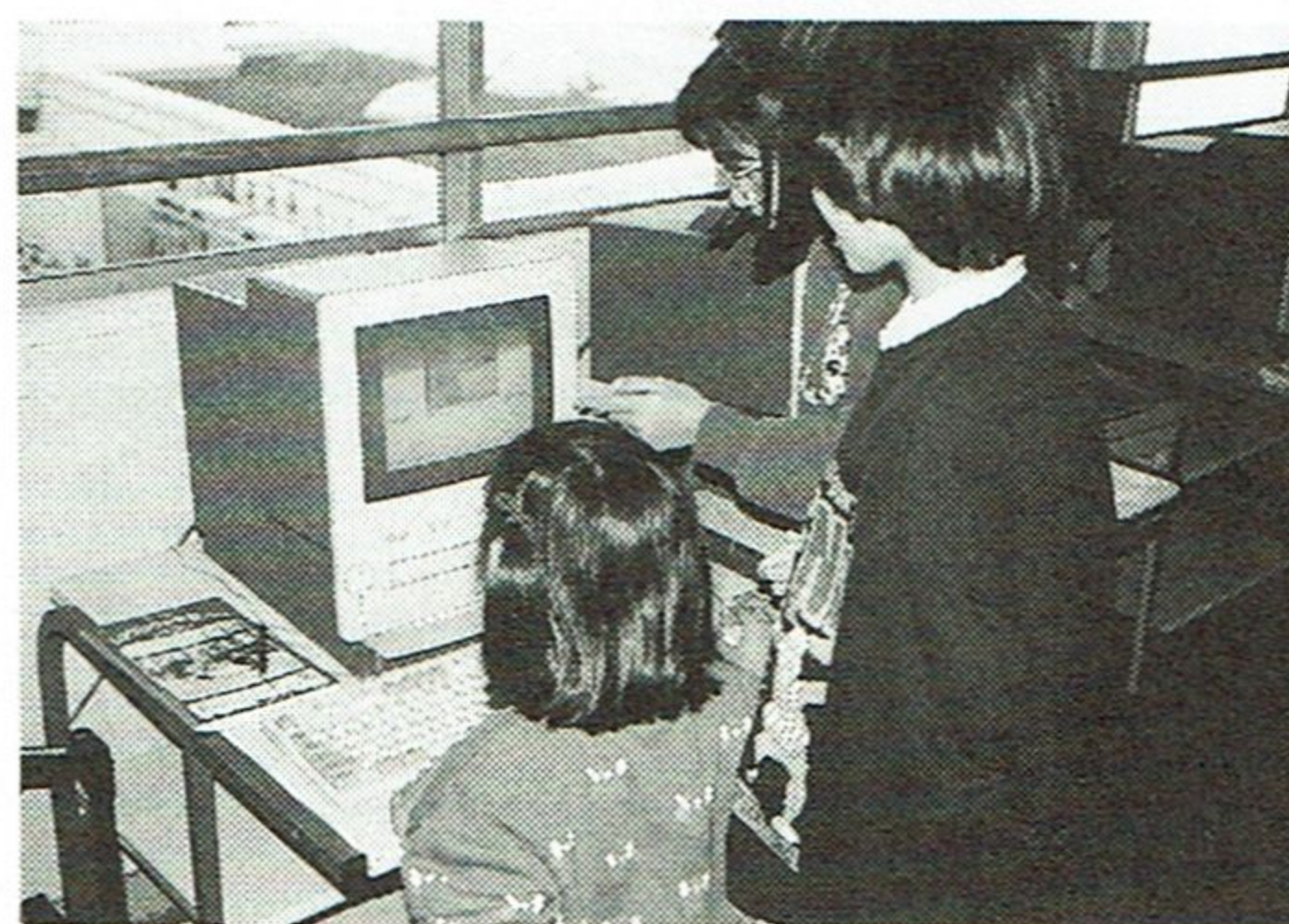
一度書いた手書き文章をもう一度全部書き直すということは、大人でも嫌なものだが、子どもにとっては嫌を通り越して、苦痛をとまなう作業のようだ。一生懸命に書いた文章が、校正によって全面的に書き直さなくてはならなくなることは、字を書くのが苦手な子にとっては死ぬほど辛いことであり、作文嫌いの子が増えるは、このときが多くなる。

そこで、ワープロによる入力を行えば、この問題はクリアされることになるのは明らかだが、ここでもう一つの大きな障害に突き当たる。キーボード入力という障害だ。キー配置や漢字変換の仕組みを理解した子どもにとっては、キーボードは楽しい道具だろうが、そうでない子どもにとっては、時間のかかる大変な代物なのだ。

(2) 国語科での音声表現とコンピュータ活用

ところで、小学校の国語学習では、新指導要領の施行により「表現」が重視されてきている。特に音声表現について、すべての学年においてこれまでよりも重視していくことが明記されている。実際の教育現場において音声表現を重視した指導を行うには、一人ひとりの子どもが音声表現をする機会を多くし、さらにその表現について自己評価や子どもどうしの相互評価をしていくことが考えられる。

「書き直し」と「キーボード」、そして、国語科としての「音声表現の重視」という問題をすべてクリアできる可能性のあるものとしてマルチメディア・コンピュータの活用を考えることができる。すなわち、コンピュータによる録音機能を活用することによって、キーボードを使わずに簡単に書き直しならぬ録り直しができ、このことは自己評価をしながら音声表現を繰り返し行うことになる。



〈あったらいいな作業中〉



〈あったらいいなより1作品〉

(3) あったらいいな こんなもの

「あったらいいな，こんなもの。」は，自分があったらいいと思うものを短作文する学習だが，ここでこの手法を活用した。すなわち，あったらいいと思うものをコンピュータの画面上にお絵かきソフトで画像表現し，さらにそこに自分の声で音声表現の説明をつけるのだ。子どもたちは，何度も何度も自分の音声表現を自己評価して録り直しをしていたことは言うまでもない。

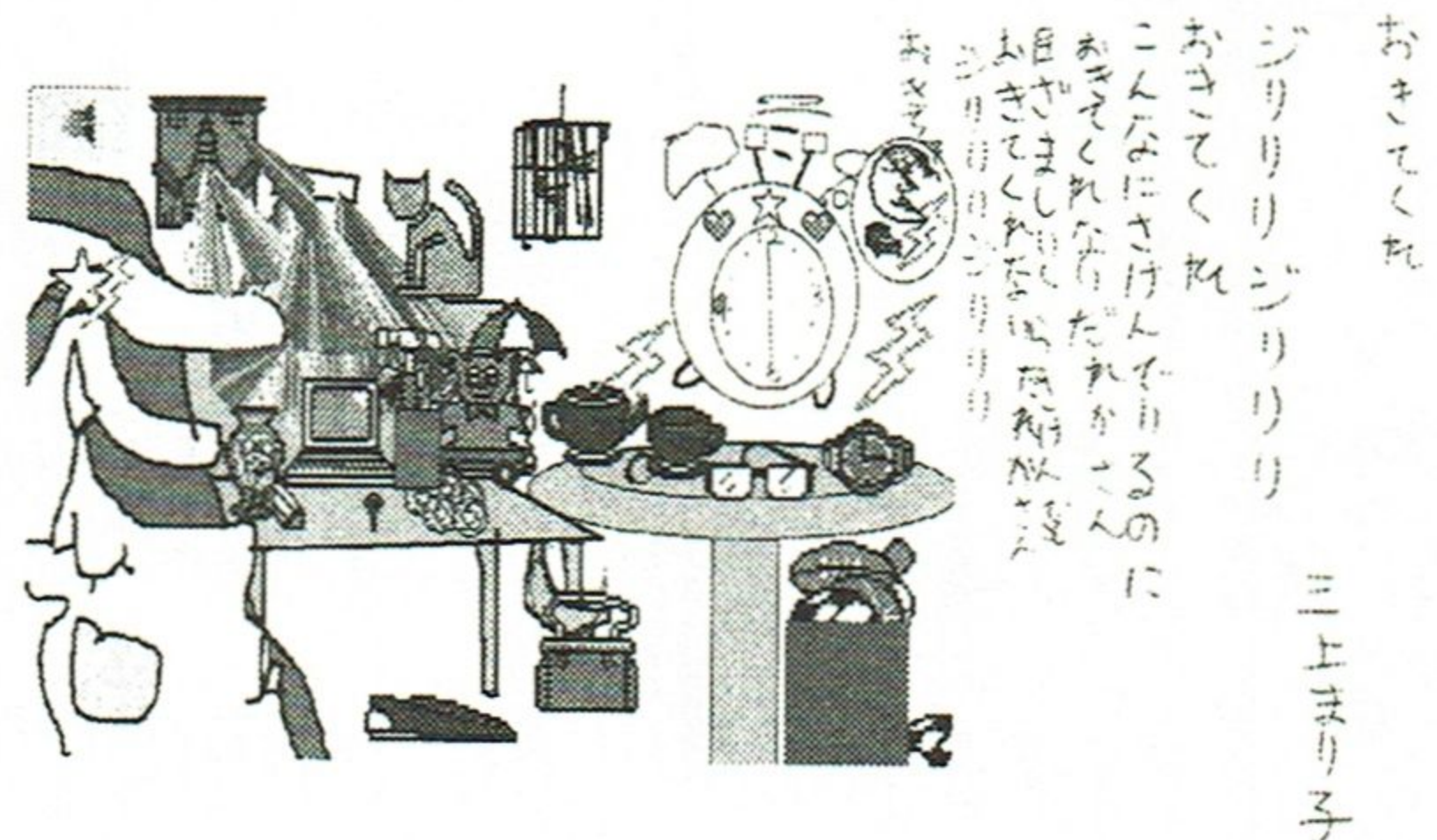
しかし、ここまでたどり着く道のりは長かった。まず、マルチメディアコンピュータに子どもたちが慣れ親しんでいなくてはならない。そのために休み時間や放課後には、子どもたちとともに私自身もいろいろな作品作りに取り組んだ。そして、他教科の学習でもマルチメディアコンピュータを使うことをどんどん推奨するようにした。また、コンピュータの得意な子どもには、より高度な使い方を先行して教え、ミニ先生として活躍してもらうことになった。

「あったらいいなこんなもの」の作品ができあがり、クラス内での発表も終わったころ、本校には「100校プロジェクト」でインターネットに接続しようという計画が進んでいた。インターネットでは、画像や文字に加えて音声も発信することができるので、まさにこの「あったらいいなこんなもの」はインターネットを活用する第一段としてうってつけの素材であった。しかし、100校プロジェクト計画の遅れにより、この「あったらいいなこんなもの」はインターネット上で日の目を見ることがなかった。

(4) 「詩の広場」をインターネットへ

「あったらいいなこんなもの」と同様の手法は、詩を作るときにも活用できた。「詩の広場」の実践では、「画像」と「音声」に加えて、さらに「文字」をもキーボードを使って入れ始めた子どもたちもいた。自分の作品の完成度を高めるために、苦手なキーボード操作をクリアして、文字入力を行う子どもたちが出てきたのだ。

そして、完成したこれらの作品は、当初の予定より半年遅れて動き始めたインターネット上に「4年1組詩の広場」として公開されている。これらの作品に対して、他の学校の子どもたちからメッセージをもらったり、いろいろな学校間で作品交換したりする日が近いことを感じている。



〈詩の広場より 2 作品〉

6 未来をつくろう



出口 和 生

(1) 宇宙船地球号とミミたろう

教科書と指導書を見ながら授業を考えて一日が過ぎていく……そんな教員生活を続けていた私に大きな転機が訪れたのは、平成5年のことだった。そのきっかけとなったのは「宇宙船地球号」と「ミミたろう」。

① 6年理科を生活に生かす

平成4年度、私は6年担任として次年度に迫った「全国小学校理科研究発表大会」の研究を進めていた。そのとき、一つ一つの単元をインパクトのある事象提示に始まって生活に生かすことのできる流れになるように数々の工夫を凝らしていた。

たとえば、「水溶液」の学習では、駅のホームやアパートの軒下にある「コンクリートのつらら」という現象を生じる「酸性雨」から導入し、水溶液の理解を深めていく単元を実践した。また、「電磁石」の学習では、未来の乗り物として開発の進められている「リニアモーターカー」を取り上げ、実際に簡易ミニチュア・リニアモーターカーを作って走らせるという単元を実践した。そして、最終単元「宇宙船地球号」では、6年間の理科学習の総まとめとして、地球環境に目を向け、自分が宇宙



＜北村先生とともにリニアモーターカー作製＞

船地球号の一人の乗組員であることを自覚することをねらう単元を実践した。

しかし、この「宇宙船地球号」の実践を進めていくうちに、私の頭の中に何かしっくりこないものが残っていった。地球環境を意識して学習するのが、このたった1単元、約1ヶ月間だけでいいのだろうか。今までの「酸性雨」や「リニアモーターカー」の学習も地球環境を意識して展開していたら、もっと違ったものになったのではないだろうか、ということであった。

② 6 年年間構想「宇宙船地球号」

平成5年3月。平成4年度も終わり、一年間の研究の反省をしているときのことである。理科主任で当時5年生の担任をしていた北村先生に、私は何の気なしにこうつぶやいた。「各单元一つ一つはよかった。しかし、宇宙船地球号を4月から1年間意識していたら、もっと違うものになったような気がする」と。

それからひと月足らずの新年度4月。6年生から出された、6年理科年間单元構想を見て、私は愕然とした。4月の第1单元が「宇宙船地球号オリエンテーション」であり、最終单元まで、ほとんどの单元に「宇宙船地球号」という冠（サブテーマ）がついていたのである。

6年生の構想の素晴らしさと実行力に感心するとともに、自分が「年間構想：宇宙船地球号」を実践できないもどかしさを（今振り返ると）感じていた。私はというと、理科研究を離れ、初めての2年生、生活科へのチャレンジとなっていた。

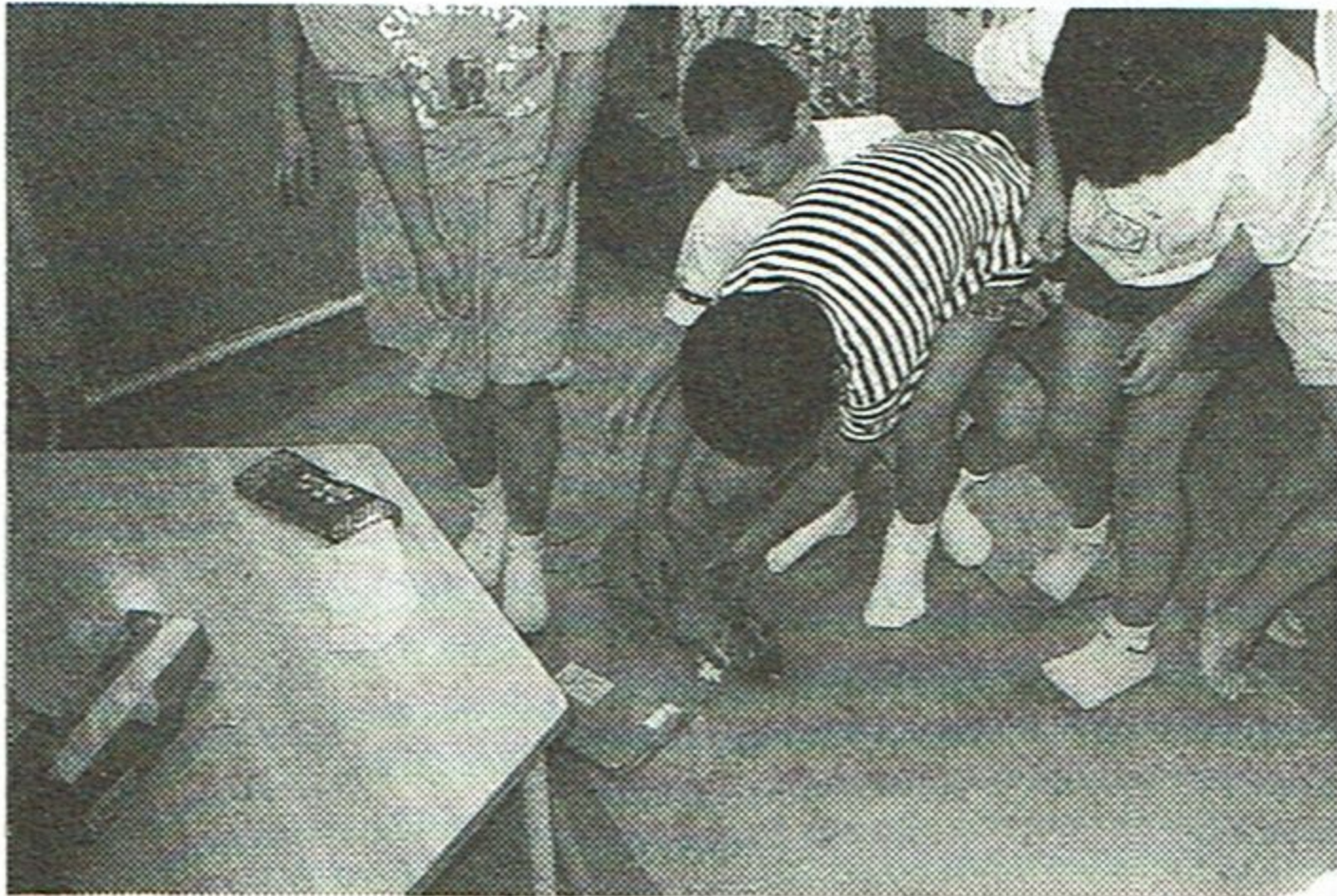
平成5年度理科年間单元計画

第6学年 单元一覧 宇 宙 船 地 球 号

学期	月	单元名（時数）	学期	月	单元名（時数）	学期	月	单元名（時数）
第一学期	4	①われら宇宙船地球号の乗組員（オリエンテーション）(1)	第二学期	9	⑦宇宙船地球号 緑のエネルギーの源を探ろう (9)	第三学期	1	⑩宇宙船地球号 宇宙の仲間を探ろう（冬の空）(2)
	5	②宇宙船地球号 地球の内部を探ろう (12)		10	⑧宇宙船地球号 コンクリートのつららの 秘密を探ろう (15)		2	⑪宇宙船地球号 命のエネルギーの源を探ろう (15)
	6	③サツマイモを育てよう (1)		11	⑨電磁石を使って発明しよう (13)		3	⑫宇宙船地球号 緑の宇宙船地球号を守ろう (10)
	7	④燃える秘密を探ろう (12)		12	⑩宇宙船地球号 宇宙の仲間を探ろう（冬の空）(5)			
		⑤宇宙船地球号 緑のエネルギーの通り道を探ろう (7)						
		⑥宇宙船地球号 宇宙の仲間を探ろう（夏の空）(3)						

③ 2 年生そして「ミミたろう」とともに

6年生は持ち上がりクラスだから無理としても、5年生や4年生の理科で「宇宙船地球号」のような年間構想を立てて実践してみたい…それなのになぜ2年生…生活科…担任発表を聞いたときの私の正直な思いであった。しかし、そんな思いを吹き飛ばすように元気いっぱいの2年生の子どもたちとの出会いと初めての生活科は、私に新たなチャレンジ精神を芽生えさせてくれた。

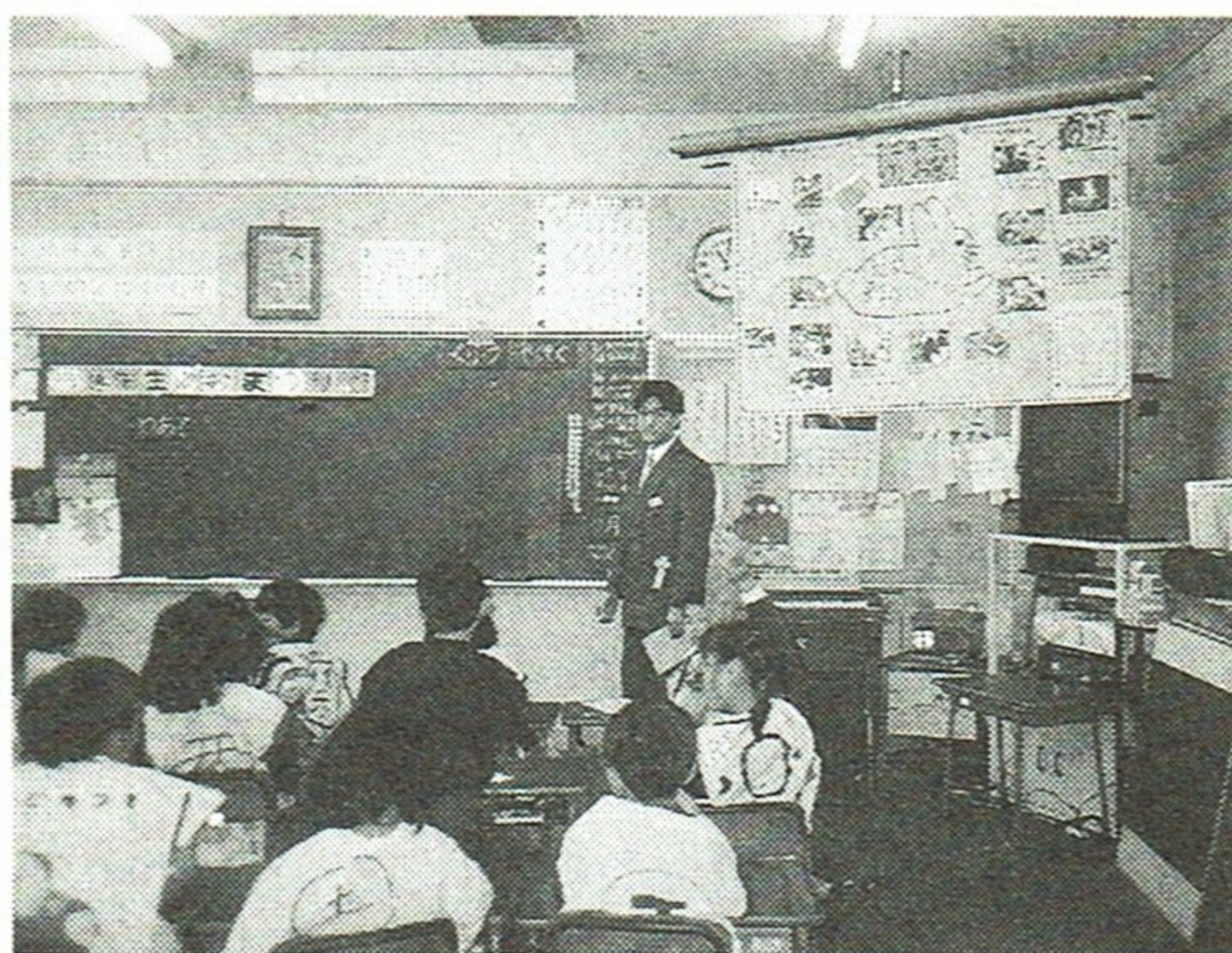


<ミミたろうとともに>

2年3組を担当してすぐに、一人の子が相談をしに来た。「先生、家でうさぎを飼っていたけど、大きくなって飼えなくなっちゃたの。1年生のときも学校に置いてもらったけど、2年生でもいいですか。」元来動物好きの私は、即座にOKした。見ると、丸々と太った茶色のうさぎが1羽、ほとんど運動もできない小さなかごの中で丸くなっていた。名前は「ミミたろう」。

次の日から、ミミたろうにとってできるだけ快適で幸せな生活を送れるようにする方法を子どもたちとともに考え始めた。まず、広い場所に出して運動ができるようにしようということで、クラスのベランダに仕切りを作ってその中での放し飼いができるようにした。その中でした糞尿の掃除はクラスの当番で行うことにもなった。これだけでも考えてもいなかった学級経営上のメリットが生じてきたのだが、さらに生活科の学習にも大きな影響を与え始めた。

生活科で野菜作りの学習をしていたある日、一人の子どもがぽつりとこんなことをつぶやいた。「この人参が大きくなったら、ミミたろうに食べさせてあげよう。」そして、それを聞いた他の子どもたちも「そうだ。ミミたろうのためにたくさん野菜を作ろうよ。」と口々に言い始め、この日から2年3組の生活科の学習が変わっていった。「動物パラダイスをつくらう」では、ミミたろうのことを全校の友達に紹介するコーナーが作られた。「野菜パーティーをしよう」では、もちろん主賓としてミミたろうが招待されてごちそうされることになった。「学年フェスティバルを開こう」では、ミミたろうの形をしたおみこしを作ってみんなでかついで回ることになった。



＜全小理にて2年3組＞



＜全小理にて多目的ホール＞

そして、2年生も終わりに近づいたころ、次年度4月からのミミたろうの家について何度も話し合いがもたれた。クラスは解体してしまうので、このまま飼い続けることはできない。新3年生の担任の先生が飼ってくれる保障はない。私にしても、次のクラスに連れていくのは、子どもたちの気持ちを考えると気が引けてできなかった。そこで、最善の方法として考えられたのが、飼育小屋のうさぎと一緒に入れてもらって学校で飼い続けようという方法だった。しかし、飼育小屋に入れて1週間、悲劇が起こった。どうもミミたろうの様子がおかしい。よく見ると、

お尻から血を流し、骨が見えるほどに肉を食いちぎられていた。他のうさぎからいじめられたのであろう。幸い発見が早く、命に別状がなかったのが不幸中の幸いだった。

この1年間で、私は「宇宙船地球号」とは違った形ではあったが、1年間を通した「柱」のある学習の素晴らしさを子どもたちとともに体験できた。そして、子どもとともにつくるドラマティックな授業の素晴らしさを。

(2) そして、未来横浜創造へ

「宇宙船地球号」への思い、そして「ミミたろう」との経験から、「どんな学年学級でも子どもとともにつくり上げる一年間のテーマが必要なのではないか。」という考えが膨らんできた。

そして、平成6年、翌7年には「全国小学校社会科研究協議会」の発表を控えて、社会科の研究を進める年に、私は4年生の担任となった。学年主任は、2年前の6年生のときにも学年を組んだ伊藤先生であり、「宇宙船地球号」のように4年生のテーマを設定したいという相談を気軽にすることができたのは幸いであった。

① 何のために地域学習をしているのか？

本校教育課程の4年生社会科単元構成を見たとき、1学期から2学期前半は横浜市の問題を考えているのに、なぜ2学期後半からは他地域や日本全体のことを考えていくのかが分からなかった。他の地域でもいろいろな工夫をしていることに気付くことが横浜の子どもたちにとってどんなプラスがあるのだろうか。単に知識として覚えるだけの学習になってしまっているのではないだろうか。「宇宙船地球号」のような大きなテーマはないのだろうか。考えれば考えるほど疑問がわいてきた。



<大岡川から見たMM21地区>

そんな4月のある日、ランドマークタワーやMM21地区のよく見える4年生の学習センターで学年会をしていたときに、ふとこんなことを思い伊藤先生と話し合った。

現在の横浜では、日本第2の大都市・歴史のある港町という特徴を生かしてMM21のような開発・工夫をしている。他の土地ではどんな条件に合わせて、どんな開発・工夫をしているのだろうか。今、小学生の子どもたちが未来の横浜に対してどんな夢をもつのだろうか。現在の横浜や他地域の様子を知れば、そのイメージが大きく膨らむことになるのではないだろうか。

子どもたちとともに「未来の横浜」のありかたについて考えていく1年間にならないだろうか。

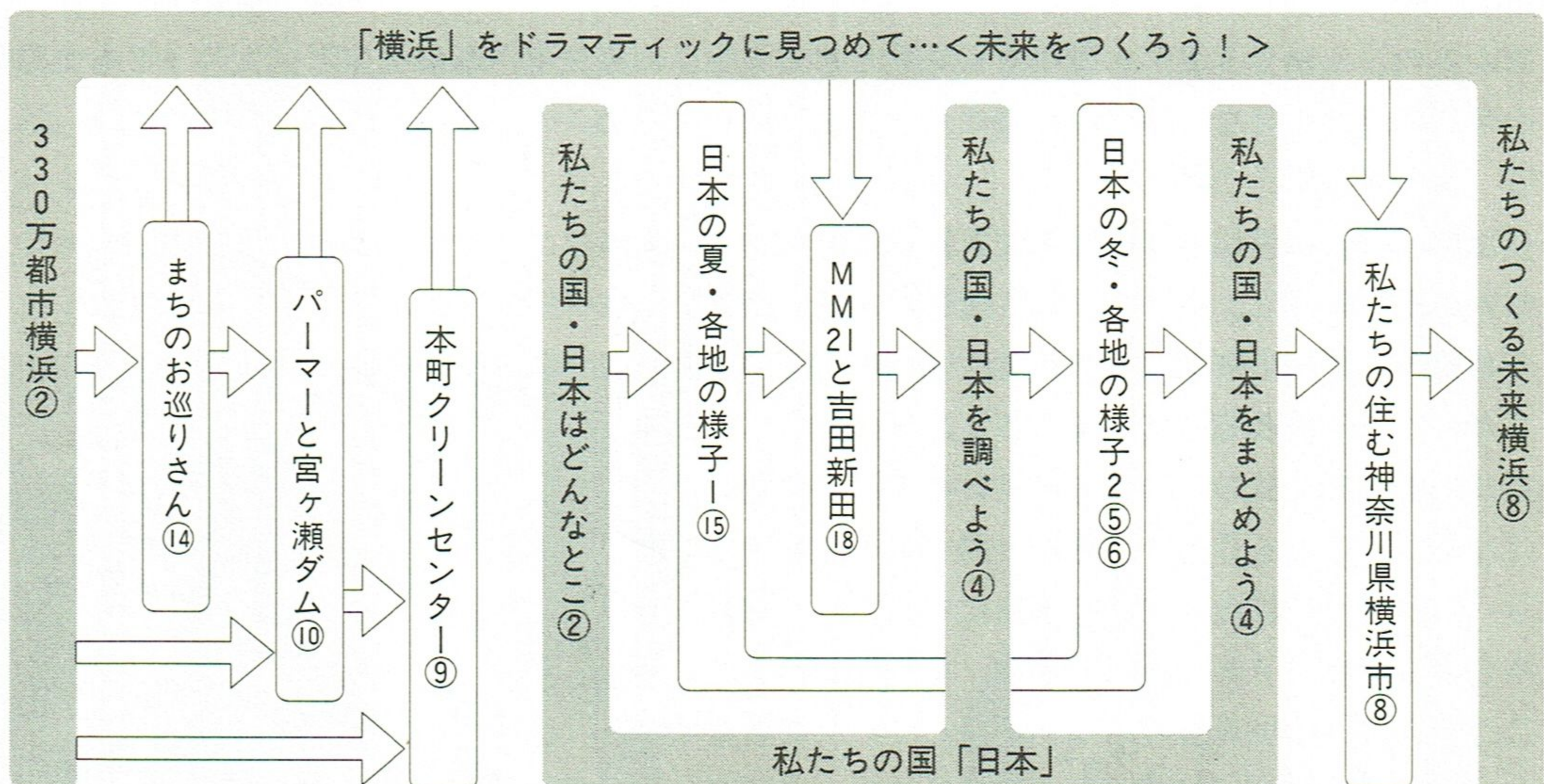
<旧4年社会科年間単元計画>

月	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
4月	野毛地区センターってどんなところ (9)	300万都市横浜 (2)		歴史を探せ、私たちの町 (3)
5月	子ども会で住みよいまちに (6)	ごみのゆくえ (8)	新潟平野の米作り (20)	三〇台の人々の暮らし (4)
6月	調べよう〇のある私たちの町 (21)	横浜に水がとどくまで (10)	三崎半島の野菜作り (6)	吉野が里と徳田大田 (4)
7月		安全を守る人々 (15)	三崎の魚市場と日本の水産業 (10)	奈良東大寺の大仏造り (6)
8月				〇長と平安〇〇の〇し (4)
9月	見つけよう上手な買い物いいお店 (19)	吉田新田とみなとみらい21 (21)	日産自動車造り工場 (24)	頼朝と鎌倉城 (4)
10月				今も生きる室町文化 (3)
11月	さくらう〇〇〇〇〇〇工場と 大岡〇のひみつ (20)	神奈川県のようにと私たちの 住む横浜市 (18)	自動車の輸出と横浜港 (13)	〇〇の戦いと信長 (3)
12月			輪島の陶器作り (8)	秀吉と太〇〇〇 (3)
1月		特色のある国内の地域 (28)		大名行列と江戸幕府 (4)
2月	ガス灯から始めよう まちの〇さがし (30)		テレビ局の仕事と私たち (14)	大黒屋光太夫の〇〇と鎖国 (9)
3月		まとめてみよう私たちの国 (6)	日本の国土と私たち (14)	日伊〇〇と横浜〇〇 (5)
				桑約改正と明治維新 (9)
				横浜大空襲と第二次世界大戦 (8)
				黒い教科書と日本国憲法 (8)
				ベイブリッジと私たちの暮らし (10)
				日本人学校と世界の国々 (10)
				国際連合と日本 (8)

② 連続学習への挑戦

4年生は「未来の横浜を創造する」ことを目指して夢を膨らませる1年間でありたい。自分たちが今から工夫・努力すればかなう「夢の実現」をめざして。こうした思いから4年生のキャッチフレーズ「未来をつくろう」が誕生した。

このキャッチフレーズは、もちろん全小社をめざして学年で相談して決められたものだが、それだけでなく、「宇宙船地球号」と「ミミたろう」から続く私自身の思いも込められている。「宇宙船地球号」でかなえられなかった一年間を通した目当てをもった連続学習への挑戦。そして、「ミミたろう」とともに立ち止まり考えながら組み立てた、子どもたちとともにつくる連続学習への挑戦という2つの思いが。



＜平成7年度 4年年間単元構想図＞

③ 賛否両論「MM21と吉田新田」

「未来をつくろう」というキャッチフレーズとともに動き出した4年生94人と担任3人、そしてT・Tとして協力してくれた板垣先生。1学期は、常に「横浜」を意識して地域の人とのふれあいを大切に、常に「未来」を意識して、MM21地区の動向など時代の変化を学習の中に取り入れていくことを心がけていった。（ふれあい実践については伊藤先生を参照していただきたい。）

そして、2学期。社会科開発単元「吉田新田」の構想が、4年のテーマとともに大きく浮上してきた。300年前の吉田勘兵衛は海だった横浜を埋め立てて田に変えた。そして現在も海を埋め立ててMM21という未来都市をつくろうとしている。

本町小学校の学区にあるこの2つの埋め立てについて調べることを通して、自分たちも未来の横浜のことを考えていこうという意志が高まるだろう。こうした考えから、単元名を「MM21と吉田新田」に変え、どちらについて調べてもよいという複線化の流れを考えた。そして、子どもたちの多様な思いへの対応のために、学級を解体してT・Tとして指導にあたることにした。

しかし、この「MM21と吉田新田」は指導案検討の段階から発表会まで、いや、それ以後も多くの参観の方々や講師の先生方に賛否両論の議論をいただくこととなった。

2つの時代を同時に複線的に学習することは、4年生にとっては混乱を生じさせるのではないか……300年前の吉田勘兵衛についてを中心に扱うことで単元の目標が達成されるのではないか……本町小のそして横浜の特徴であるMM21をもっと大きく扱うべきではないか……T・Tの形態をとって学年合同で学習を進めることは学級化に反するのではないか……いや、年間を見通した中でのこの単元の位置付けは素晴らしい……単元全体が子どもの思いをかなえる方向に向かっているのではとてもよい……オープンスペースとT・Tという学習形態がうまく使われていると。



<4年3組授業風景>

見ていた人はいろいろなことを言った。結論はでなかった。しかし、実際に授業をした私と伊藤先生、山田先生、板垣先生と94人の子どもたちの心の中には、大きな仕事をやり終えた後の充実感があった。

④ 未来をつくろう

「MM21と吉田新田」は、可能性と問題点を残して終わった。しかし、その成果は3学期になって現れてきた。4年生最終単元「未来横浜20X0」での子どもたちは、未来の横浜に必要なことを一生懸命に考えた。そして、そのために自分たちが、今しなければならないことを考え、実際に行動する子どもたちもいた。サケの稚魚をMM21の海に放すために毎日、水を汲んできた子どもたちがいた。（「サケ」の実践については、板垣先生の手稿を参照していただきたい。）そして、学年最後の日、3月31日には、中区が主催した「未来を考える中くっこ会議」に10名の代表が参加し、区長に自分たちの考える「未来横浜」を主張してきた。94人の子どもたちは、20X0年の横浜を支えていくことだろう。



<MM21地区へのサケの放流>

最後に……

平成7年度、4年1組のベランダには「ミミたろう」がいる。
2年前に一緒に暮らした子どもたちと再会し……未来の横浜を間近に感じながら……